

階段利用促進の実験的取組

概要

**階段利用促進**のために2か所のエレベーター前にそれぞれメッセージを掲示し、介入前後の**階段利用者数**の増加分を測定した。  
その結果、介入前と比較して、それぞれ**7.53%**、**7.67%**増加した。

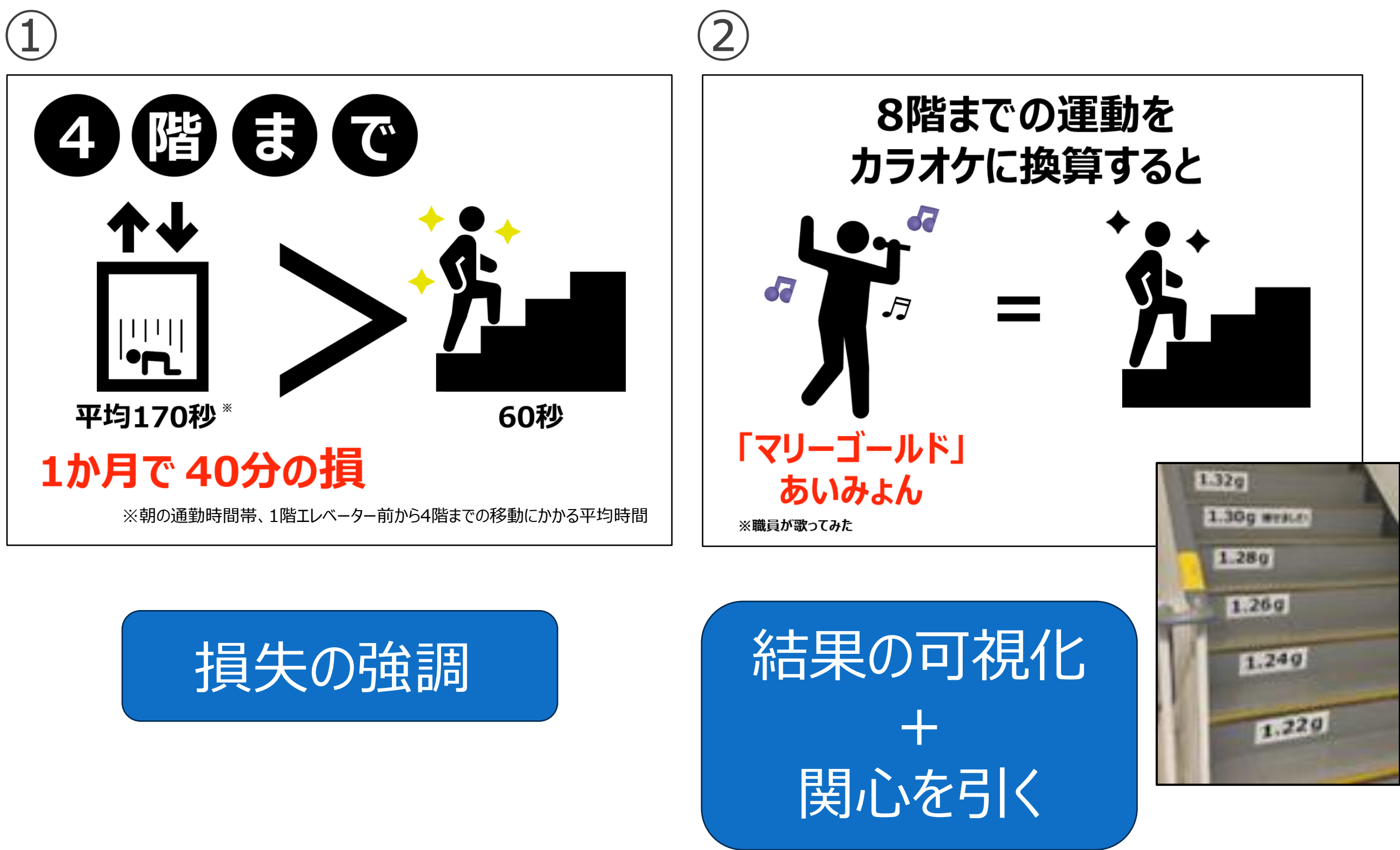
目的

主に職員が利用しているエレベーターについて、すぐ横に階段があるにも関わらず、通勤時間帯は非常に混雑している。そこで、エレベーターの稼働減少による**電気使用量の削減**と**職員の健康増進**につなげるために、職員の階段利用を促進するナッジ介入を行った。

介入方法

介入の対象となる2か所のエレベーターに対して、それぞれ異なる介入方法を検討・実施した。

- ① **階段との移動時間の差**を強調したメッセージを掲示
- ② **階段利用による健康効果**を強調したメッセージを掲示



効果測定

**朝の時間帯**における1日あたりの**階段利用者数**を記録し、介入前後の約1か月間の**利用者数（平均）**を比較した。  
介入期間：①令和4年8月19日～令和4年8月31日  
②令和4年9月13日～令和4年11月4日

結果

朝の出勤時間帯の階段利用者数（平均）について、  
①では**約7.5%**、②では**約7.7%**増加した。

|   | 介入前    | 介入後    | 増加率          |
|---|--------|--------|--------------|
| ① | 176.6人 | 189.9人 | <b>+7.5%</b> |
| ② | 103.0人 | 110.9人 | <b>+7.7%</b> |

ペットボトル分別促進の実験的取組

概要

大阪府立泉北高校内の**ペットボトル分別促進**のために、中身が見えるペットボトル専用のごみ箱の設置や正しい分別方法を案内する手書きのポスターの掲示を行い、対照群を含む4グループの**分別率**を測定した。  
その結果、対照群と比較して最大で**47.3%pt**向上した。

目的

大阪府立泉北高校では、各教室にペットボトル専用の分別用のごみ箱が設置されているが、分別されずに捨てられている状態だった。そこで、**ペットボトルの分別を促進**するために、SEEDsが支援してナッジ介入を行った。

介入方法

2年生のクラスを対象に4つのグループに分け、それぞれに異なるナッジ介入を実施した。

- ① **中身が見えるごみ箱**に変更し、分別済みのペットボトルをあらかじめ設置
- ② 分別方法を案内する**手書きのポスター**を掲示



社会的規範

関心を引く

| グループ | クラス   | 介入内容    |
|------|-------|---------|
| A    | 5組    | ① + ②   |
| B    | 1組、7組 | ①       |
| C    | 2組、6組 | ②       |
| D    | 3組、4組 | なし(対照群) |

効果測定

各グループのごみ箱内のペットボトルの本数と状態を記録し、それぞれの**分別率**を差分の差分法による検証を行った。  
介入期間：令和5年1月16日～令和5年1月27日

結果

分別率について、対照群と比較して、グループA(① + ②)では**47.3%pt**、グループC(②)では**32.1%pt**向上した。  
(単位：%pt)

|               | 分別率の前後差 | 対照群との差        |
|---------------|---------|---------------|
| グループA (① + ②) | +40.0   | <b>+47.3*</b> |
| グループB (①)     | -3.7    | +3.6          |
| グループC (②)     | +24.8   | <b>+32.1*</b> |
| グループD (対照群)   | -7.3    | —             |

\*：5%有意